

新素材特集の発刊にあたって

Remarks on Special Issue on New Materials



新素材事業部長

徳永 庸夫 *Tsuneo TOKUNAGA*

人類がはじめて道具を使い出したときに、その材料が木であったか、石であったかは分かりませんが、様々な発明によって道具が武器や機械装置に発展していった過程では材料もその特性に対する様々な要求に応じて発展してきました。材料自体も様々な発明がなされ、新しいニーズに対する材料の改善、新規材料の開発、提案によって材料も進歩と拡大を進めて来ました。多くの金属、陶器、磁器などが実用化されて来て、その中では鋼は金属材料の王者として今なお君臨しています。今後の材料の地図はどの様に塗り代わっていくのでしょうか。技術の価値とは社会や市場の課題解決を行うことによって生まれてくるものでしょう。材料の価値も市場や、顧客の持つ課題を解決することができるマテリアルソリューションを提供できるところにあると考えます。材料とその使用に関するソフトの提供を同時に行うことによって、素材メーカーのお客様に対する存在価値ができてきます。当社の鉄鋼事業ではこれまで同様、多くのマテリアルソリューションを提供しており

ます。今後の新素材事業部の領域においてもこの様なお客様の課題への対応力を強めて、先端材料分野における力を拡げていきたいと考えております。

新しい世紀のスタートに当たって、社会生活のスタイルはITを基盤とした物に大きく変革されようとしています。それを支える物として半導体を軸としたエレクトロニクス技術と情報処理技術の高度化が続き、また大いに要求されています。私達の生活スタイルは、情報を広く有効に得ていく形に否応なく変わりつつあります。他方、化石エネルギーの枯渇によるということだけでなく、生命の環境基盤の安定を確保していくためにもエネルギーの転換が不可欠になりつつあります。この様な社会、市場の課題解決には材料にも新しい技術、画期的な材料が必須となるでしょう。当事業部は素材に対する御客様のご期待ご要望に応えつつ今後も努力していきたいと考えております。

本特集では、この様なこれまでの活動の事例の一部をご紹介します。私共の新規材料開拓における取り組み内容をご理解いただき、更に新たな課題のご教示、ご指導とご支援を賜りますことをお願い申し上げます。